



ラ フォレ セ ラ ヴィー ー森こそ命ー

La Forêt, C'est la Vie !



ナツメヤシとその樹間で栽培されるオオムギ

ナツメヤシの誘惑

最近通い続けているサハラ・オアシスの面白さのひとつは、貴重な灌漑水を利用するナツメヤシ栽培にある。ナツメヤシを軸とする循環生態系システムには、砂漠の知恵が凝縮しているからだ。

私とナツメヤシの最初の出会いは、かつて滞在したチャドであった。珍しさもあって市場でボール一杯のナツメヤシの実(以下「デーツ」)を買ってみた。ちょっと乾いた食感であったが思いのほか甘く、半日のうちにボール一杯のデーツをたிரらげてしまった。食べ過ぎた天罰なのかその晩は胸やけに悩まされたのだが、以来デーツは私のおやつとなった。このとき食べていたのはチャド北部砂漠地帯で栽培されるものであったはずだ。それから十数年が経ち、サハラ・オアシスでナツメヤシとの再会を果たした。

ナツメヤシは雌雄異株で、株分けによって個体を増やしていく。気に入ったデーツを実らす雌個体があれば、農民は同じ性質の雌個体を増やすことができる。かくして、ナツメヤシのローカル品種は増えに増えた。友人のアルジェリア人植物学者によれば、アルジェリアで今わかっているだけでも 1000 品種を越えている。形、色、味、食用に適する乾燥度は品種によって異なる。

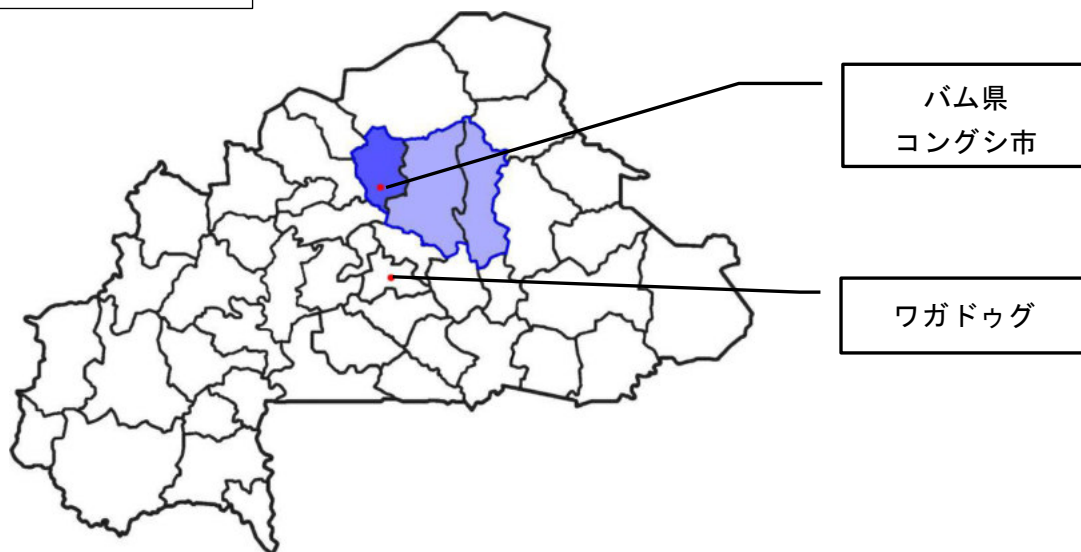
オアシスで穫れたデーツはアルジェリア北部の地中海沿岸地域、さらにヨーロッパまで輸出される。北に向かう品種はねっとりしている食感が特徴だ。反対に南のマリやニジェールに輸出される品種は、高乾燥に適している。この高乾燥のデーツは、私がチャドで食べていたものと似ている。私がナツメヤシに魅了される理由は、ナツメヤシがサハラとサヘルを結ぶ文化の架け橋だからでもある。

(特活) 緑のサヘル理事 石山 俊 (総合地球環境学研究所 研究員)

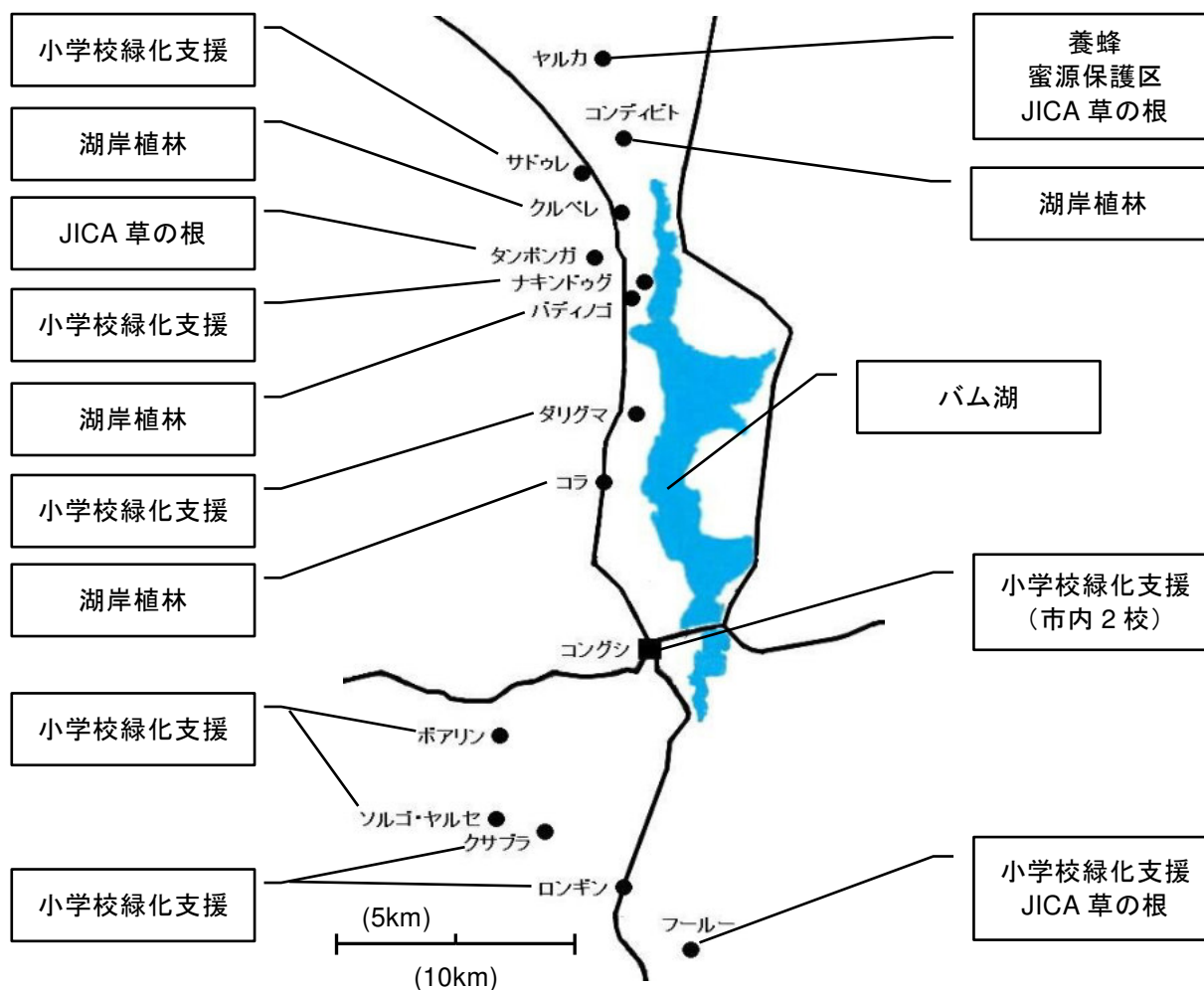
ブルキナファソの活動地域図



<バム県位置図>



<バム県コングシ地域活動実施村位置図>





ブルキナファソでは、今年のラマダン（断食月）は6月6日から7月6日まででした。この間イスラム教徒の方々は、夜明けから日没まで、飲食を摂りません。時期的に雨季の始まりであり、6月中旬以降はよく降ったため過ごしやすく、それほど負担にはならなかったようです。一方で今年の降雨は、強い降り方で1時間以上続くことが多く、首都ワガドゥグの郊外の居住区では水害が発生しました。降りすぎは困りますが、雨枯れしないことを願っています。

JICA 草の根技術協力事業

<視察研修>

5月24～26日に、フールー村、タンポンガ村、ヤルカ村で、近隣村の住民を対象にした視察研修を行ないました。

コングシ地域では、技術や知識の伝達は人を介して行なわれます。ただ、親しい関係でなければ細部まで尋ねることは困難です。多くの場合は、べっ見や聞き伝えで知り、見よう見真似で実行されています。

3村の周辺では、住民の取り組みに関心を持っている方々がたくさんいます。実際の作業を見学し、従事している住民と意見交換する機会を設けることで、正確でポイントを押さえた技術・知識を知ることが出来ます。



ザイ農法の穴の掘り方について、参加者に説明するフールー村のメンバー。

視察研修には、対象村の5名に加え、近隣2村から各5名が参加しました。バム県農業局の技官に進行役をお願いし、ザイ農法（穴栽培）やディグット（石堤）、アンドロポゴンの植栽列を見学しました。また、意見交換の場では、技術的な面のほか、家畜飼育・販売や搾油に関し、質疑応答がなされました。近隣村からの参加者は全員熱心で、自村での取り組みに期待できます。近いうちに、各村の状況を視察するつもりです。

<養蜂>

フールー村で行なっている養蜂活動ですが、7月に、新しい養蜂箱を10箱設置しました。これで、設置総数は20箱になりました。

また蜜蜂の誘引を促すため、メンバーから提案のあった小型の養蜂箱も、10箱設置しました。通常の養蜂箱の半分くらいの大きさで、樹上に据え付けられました。

3月に、初めて蜂蜜を採取することが出来ました。これまでのところ10箱中4箱にしか蜜蜂が営巣していません。現在は雨季であるため、蜜蜂の誘引には適しています。今回の試みが、状況の打開につながることを期待しています。



フールー村に設置された小型養蜂箱。早速、蜜蜂が巣作りに集まってきました。

ブルキナファソから 2



小学校緑化支援プロジェクト

6月2日に、2015年度に行なった校庭緑化活動に対する成績発表会が開催されました。4月22~23日に行なわれた評価作業の結果に基づき、10校の取り組みに対する労いと励ましの機会になりました。

発表会には、教育局から5名、環境局から2名、協力団体から2名が出席しました。10校からは、校長と教師、保護者と生徒2名が出席しました。各校には、賞状が手渡されると共に、今後の取り組みを奨励する意味で、管理用具が賞品として配られました。

小学校緑化支援プロジェクトは、2007年から続けています。発表会も毎年開催しているため、恒例の行事となっています。教育局からの協力も積極的になってきており、地域に根差した活動になりつつあります。



教育局の職員から賞状と奨励金を手渡される生徒たち。(ナキンDoug小学校)

チャドから



現状では、今後の食糧事情は厳しくなる見通しです

チャド南部では、例年よりも1ヶ月ほど早くから降雨がありました。しかし、中部および北部では、雨が降り始めたのは6月の中旬になってからでした。このため、ソルガム（モロコシ）の播種が、例年よりも遅れました。

市場で売られている穀物は、量的に不足しているわけではありませんが、端境期に入っているため、販売価格が上昇しています。特に北部の市場では、20%以上の上昇率を記録しています。

中部と北部地域で予測されている食糧不足は、端境期という时期的な要因だけでなく、備蓄量の不足や低収入に起因しています。さらに、隣国ナイジェリアで活発化しているボコハラムの襲撃から逃げてくる避難民が増加していることも、理由になっています。



市場でパンや揚げ菓子を販売する女性たち
(2005年)

チャドで活動が出来なくなってから9年が経ちます。近年、首都ンジャメナにビルが建設されたとか省庁の窓口での対応が良くなった等の変化を耳にします。しかし、住民の暮らしぶりには、変化が見られないような気がしてなりません。

国内活動



今期は7月に、毎年恒例となっている「チャリティ・コンサート」、3年連続となる富山県立桜井高校での講演、昨年に続く「アフリカ日比谷フェスティバル」への出展等、イベントや活動が集中しました。事務局もてんてこ舞いの忙しさでしたが、ボランティアの皆さんの頑張りのおかげで、無事乗り切ることが出来ました。

< 東京事務局での主な活動一覧 >

5月	12日(木)	明治学院大学「世界の環境を考える」講義	講義	(菅川)
		「世界食料デー月間」ミーティング	出席	(岡本)
6月	17日(金)	東京外国語大学 インターン説明会	担当	(菅川)
	23日(木)	「2016年オリジナルカレンダー」作製開始		
7月	9日(土)	アフリカ日比谷フェスティバル (～7/10)	出展	
	10日(日)	チャリティ・コンサート「幸田浩子&福島明也 with 桂春蝶」	出展	
	13日(水)	富山県立 桜井高校 講演(2年生 188名)	講演	(菅川)

チャリティ・コンサート開催

7月10日(日)、毎年恒例となっているチャリティ・コンサートが、大阪府池田市民文化会館にて開催されました。今年ステージに上って下さったのは、ソプラノ歌手の幸田浩子さんとバリトン歌手の福島明也さんのお二人。寺嶋陸也さんがピアノを、桂春蝶さんがMCを務めて下さいました。

幸田さんの透き通った歌声と福島さんの深みのある歌声の妙は素晴らしく、観客は次々に披露される日本の唱歌やオペラの名曲の数々に、しみりとしたり心躍らせたり。皆さん、すっかり魅了されていました。



コンサート開始の1時間前の開場にも関わらず、早くから長蛇の列が出来ました。

尚、このコンサートは「(財)いけだ市民文化振興財団」、「アフリカの砂漠で木を植えている日本青年を支援する会」、「中西クリニック」の主催、「池田市」、「池田市教育委員会」、「池田市公益活動促進協議会」の後援で開催され、収益は全て「緑のサヘル」に寄付されることになっています。関係者の皆さま、お越し下さった皆様、本当にありがとうございました。

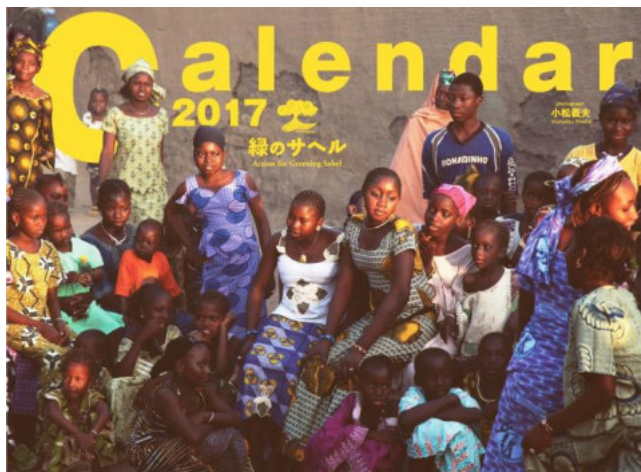


アフリカ日比谷フェスティバル

去る7月9・10の両日、東京・日比谷公園にて「アフリカ日比谷フェスティバル」が開催されました。「緑のサヘル」もブースを構え、活動紹介や民芸品の販売を行ないました。初日は終日の雨、2日目は猛暑とあまりいいコンディションではありませんでしたが、それでも多くの方々と触れ合うことが出来、とても充実した2日間となりました。



2017年カレンダー販売開始!!



皆さんにご好評いただいている「緑のサヘル オリジナル・カレンダー」の販売を開始しました !!

世界各国で人々の暮らしを撮り続ける写真家・小松義夫氏と、旅行人・編集長の蔵前仁一氏のご協力で、今年も素晴らしい仕上がりとなっています。

普段は遠い西アフリカですが、このカレンダーによってアフリカの大地とそこに暮らす人々が身近に、そして愛おしく感じられることでしょう。

カレンダーを1冊ご購入いただきますと、苗木10本を植えることができます。ぜひカレンダーの購入で国際協力を！ 同封のチラシまたはメール、お電話にてお申込み下さい。
(緑のサヘル東京事務局：メール agsj_tokyo@sahelgreen.org / 電話 03-3252-1040)

サイズ：A4 変形 (広げた時 A3 変形) 印刷：オールカラー28ページ
価格：1部 1,200円 (税込み)、送料 200円 (全国一律・何部でも)

「世界食料デー」月間 2016 みんなで食べる幸せを

世界では、全ての人々が十分に食べられるだけの食料が生産されているのに、7億9500万人が飢えています。いったい何故でしょうか？

毎年10月16日は国連が制定した「世界食料デー」です。そして10月は、より多くの方々に飢餓や食料問題について知ってもらうために、国際機関やNGOなどが呼びかけ、企業や教育機関と共に様々なイベントを行なう「世界食料デー月間」となっています。



来たる10月14日(金)、「World Food Night 2016—食と気候変動の危機に立ち向かう—」が開催されます。当日は数名の講師から、食料問題と気候変動に取り組む事例や解決に向けたアイデアが紹介されます。詳細は近日中にHPに掲載の予定ですので、ご確認の上、奮ってご参加下さい。(HP:「世界食料デー」月間 2016 みんなで食べる幸せを <http://www.worldfoodday-japan.net>)

「緑のサヘル」は「世界食料デー月間」の呼びかけ団体の一つです。皆さんも、私たちに何ができるかを一緒に考えてみませんか？

ありがとうございました

* 敬称は略させて頂きました。

【 継続会員のみなさま 】

和田隆資／安田喜代美／小川あい子／門村浩／室井光子／山根二郎／柏原竜一
手嶋康／天野洋子／竹内信／鈴木俊介／永井邦子／宮越太郎／森内和子／高橋聖子
綱島孝／山野上素充／町千恵子／吉川千尋／佐藤京子／菊地博子／手嶋千恵子
亘友子／立花美江／立屋敷哲／太田弘子

【 ご寄付を頂きました 】

賀川麻衣／赤山孝子／高橋菜々子／川村友子／田中順子／伊藤良三／小川あい子
内藤秀誠、真子／内田一二三／畑野めぐみ／村上和代／榎本みつ枝／小林伸張
手嶋康／木嶋清江／武知ハルミ／山本淑子／小池昌子／青山初穂／住友俊子
梅田暢子／米多喜久男／瀬戸義子／田中ちえ子／鈴木潤／佐藤裕美／太田弘子
水口正之／森山繁／おいものせなか／個別教育フォレスト 安多秀司／松本秀紀

他 匿名をご希望の方 5名

【 BOOK募金を通じてご寄付を頂きました 】

村上和代／手塚太郎／中久保慎一／徳永由希子／北野真一郎
一戸町立小鳥谷中学校／(独)国際協力機構 (JICA) 関西国際センター

他 匿名をご希望の方 3名

【 ハガキ・切手・商品券・図書カードなどをいただきました 】

匿名をご希望の方 1名

上記は 2016 年 5 月 1 日から 7 月 31 日までにご支援頂いた方、また、それ以前にご支援頂き、お名前を掲載できなかった方のご芳名であり、8 月 1 日以降にご支援下さいました方については、次号の掲載とさせて頂きました。

【 協力団体・助成団体 】

アフリカの砂漠で木を植えている日本青年を支援する会／(独)国際協力機構 (JICA)
(公財)毎日新聞東京社会事業団／(公財)イオン環境財団(環境活動助成)
緑の募金(管理団体:(社)国土緑化推進機構)／(公財)国際緑化推進センター
isave(シーブ株)／省エネ住宅ポイント／アフリカ料理 トライプス
(財)農村更生協会 ハケ岳中央農業実践大学校／(特活)国際協力 NGO センター
(特活)環境アリーナ研究機構／国際連合食糧農業機関 (FAO)
(公社)国際農林業協働協会／(株)グリムス／株式会社プレジャーワークス
gooddo(株)セブテーニ・ベンチャーズ／ソーシャルアクションリング
マチウケル！(株)廻船問屋／かざして募金 ソフトバンク／ジャパングビング

【 写真を提供しました 】

あすとろ出版(株)『新編新しい社会 地理掛図』
(株)小学館 『キッズペディア 地球館』
(公財)愛媛県教育会『新しい社会 地理 社会科単元別テスト、夏休みの学習 中学 1 年』

「緑のサヘル」からお知らせ

グローバルフェスタJAPAN2016

今年も日本最大級の国際協カイベント、「グローバルフェスタ JAPAN」に参加します。このイベントは、より多くの方々に国際協力を身近に感じていただくことを目的に、毎年開催されています。

開催日：2016年10月1日（土）・2日（日）
各日 10:00～17:00

場 所：お台場センタープロムナード
（シンボルプロムナード公園内）

H P：http://www.gfjapan2016.jp

ぜひお誘いあわせの上、遊びに来て下さい！！

自然の恵み ハケ岳製品を！

長野県ハケ岳山麓にあるハケ岳中央農業実践大学校で丹精込めて作られたチーズやカレー、アイスクリームはいかがですか？

「緑のサヘル」を通じて製品をご注文頂くと、大学校のご厚意により、売上げの20%が当団体への寄付となります。詳細は右記をご覧ください！



【 もくじ 】

- | | |
|------------------|-----------|
| 1・・・表紙 | 5・・・国内活動 |
| 2・・・ブルキナファソ活動地域図 | 6・・・事務局より |
| 3・・・ブルキナファソから 1 | 7・・・ありがとう |
| 4・・・ブルキナファソから 2 | 8・・・お知らせ |
| チャドから | |

< スタッフよりひと言 >

● 今年の夏は蚊が少なく、助かっています。でも、セミの声を聞いたのは、ずいぶん遅かった気がします。（岡本） ● リオ五輪での難民代表団、紛争地からの代表たちの頑張りに大感動。新たな勇気をいただきました。（菅川） ● カリテバターの実実は青梅のように美しく、果肉は熟すとトロトロと甘いらしい。食べてみたい。（本所） ● 今年の雨季は雨の降り方が激しく、ブルキナファソの各地で水害が発生しています。幸いプロジェクト先には恵みの雨となり、皆さん収穫期を楽しみにしています。（大谷）

ご贈答品・ご挨拶に
どうぞ

ハケ岳農場の特産品

「ハケ岳中央農業実践大学校」の手作りチーズやアイスクリーム、チーズケーキ、カレーなど、ハケ岳の新鮮な材料と確かな技術から生まれた品々が勢揃いの9セットです。各地への送料を含めた価格は下記の表のとおりです。

大学校のご厚意により、お求めごとに
定価の20%が当会に寄付されます。

【お申し込み方法】

郵便振替用紙に、ご依頼人様とお届け先様のご住所、氏名、電話番号、ご希望セット名と数量をご明記の上、下記までお振込みください。

00120-7-419488「緑のサヘル」

お振り込みから到着まで10日程かかります。

		関東 信越 北陸 中部 南東北	関西 北東北	中国	四国	北海道 九州	沖縄
A	アイス10個	4,258	4,366	4,474	4,582	4,690	5,230
B	アイス20個	6,858	6,966	7,074	7,182	7,290	7,830
C	チーズ	4,042	4,150	4,258	4,366	4,474	5,014
D	アイス / ケーキ2種	4,258	4,366	4,474	4,582	4,690	5,230
E	ムース	5,388	5,496	5,604	5,712	5,820	6,360
F	ケーキ	5,388	5,496	5,604	5,712	5,820	6,360
G	カレー / チーズ	5,242	5,350	5,458	5,566	5,674	6,214
H	ケーキ2種	3,688	3,796	3,904	4,012	4,120	4,660
I	カレー	3,822	3,930	4,038	4,146	4,254	4,794

※カレーは、甘口か中辛のどちらかになります

宅急代金値上げのため、2015年9月より
料金が変わりましたのでご注意下さい。

内容の詳細をご希望の方は、事務局まで
ご連絡ください。詳細チラシをお送りいたします。

La Forêt, C'est la Vie !

Vol.67

編集 岡本敏樹 菅川拓也 本所稚佳江 大谷恵美 /印刷 社会福祉法人東京コロニー

発行所 (特活) 緑のサヘル ホームページ: http://sahelgreen.org/ E-mail: agsj_tokyo@sahelgreen.org

〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町16番地 NASビル3F TEL:03-3252-1040 / FAX:03-3252-1041